

試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	研究
課題名：ハマグリ の 種苗生産における浮遊幼生期の飼育条件			
〔要約〕ハマグリ の 種苗生産における浮遊幼生期の好適な飼育条件は、塩分が海水を 60% に希釈した濃度、水温は 33℃、餌料はパブロバ・ルテリが適当であることが明らかになった。			
キーワード [※] ハマグリ、種苗生産、浮遊幼生、東京湾			
実施機関名	主 査	水産総合研究センター東京湾漁業研究所	
	協力機関	千葉県漁業協同組合連合会	
実施期間	2012 年度～2014 年度		

〔目的及び背景〕

東京湾では長期的な資源の減少やウミグモの寄生被害によってアサリの漁獲量が著しく減少していることから、ハマグリ資源を増大させる要望が寄せられている。

このため、千葉県では平成 16 年度からアサリで開発された手法を応用して、ハマグリ の 種苗生産技術開発に取り組んでおり、平成 24 年度から浮遊幼生期の飼育時における生残率の向上を図るため、好適な塩分、水温、餌料の飼育条件を明らかにすることを目的として研究を実施した。

〔成果内容〕

1 塩分条件

- ・ハマグリ浮遊幼生を飼育する海水の塩分を、希釈海水（原海水の 40%、60%、80%）、原海水（100%）、濃縮海水（120%）の 5 区に設定し試験を実施したところ（水温 28℃、餌料にパブロバ・ルテリ）、生残率は 40%海水区が、成長は 60%海水区が最良であった（図 1、2）。生残率は 40%と 60%で有意差が認められなかったことから、種苗生産時には 60%海水が適当と考えられた。

2 水温条件

- ・ハマグリ浮遊幼生を飼育する海水の水温を、23℃、28℃、33℃の 3 区に設定し試験を実施したところ（塩分 60%海水、餌料にパブロバ・ルテリ）、生残率、成長ともに 33℃区が最良であった（図 3、4）。

3 餌料条件

- ・ハマグリ浮遊幼生の餌料として、キートセロス・グラシリス、イソクリシス（タヒチ株）、パブロバ・ルテリの 3 種の単独給餌による飼育試験を実施したところ（水温 33℃、塩分 60%海水）、パブロバ・ルテリ給餌区での生残率、成長が最良であった（図 5、6）。

〔留意事項〕

〔普及対象地域〕

東京湾（浦安市～富津市）の二枚貝漁業が行われている海域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

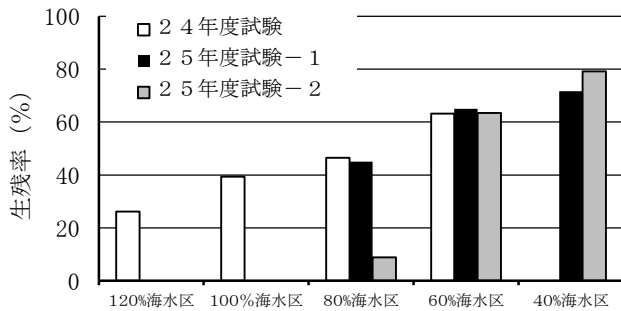


図1 ハマグリ浮遊幼生期の塩別生残率

(平成24年度は60, 80, 100, 120%海水区で実施)

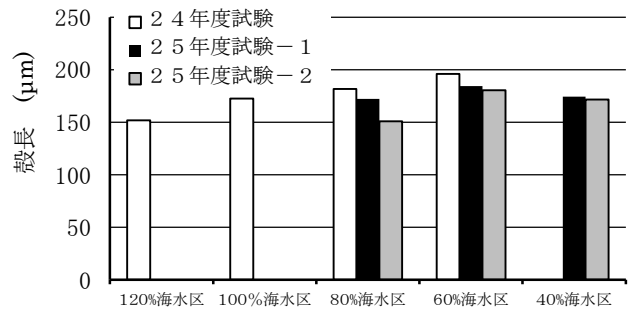


図2 ハマグリ浮遊幼生期の塩別成長

(平成24年度は60, 80, 100, 120%海水区で実施)

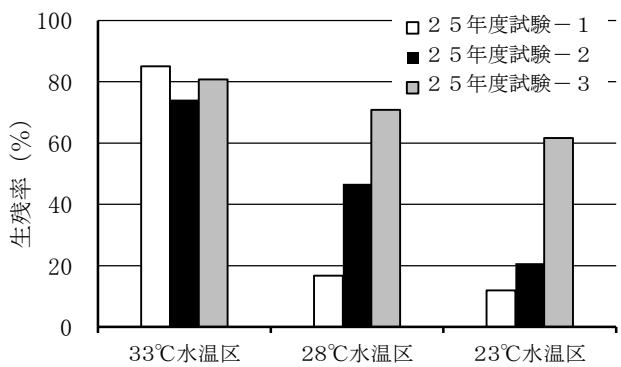


図3 ハマグリ浮遊幼生期の水温別生残率

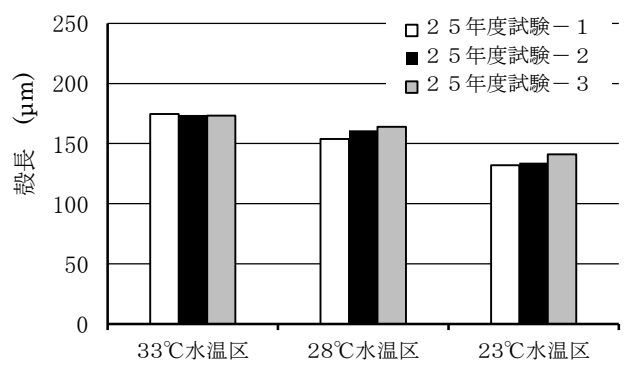


図4 ハマグリ浮遊幼生期の水温別成長

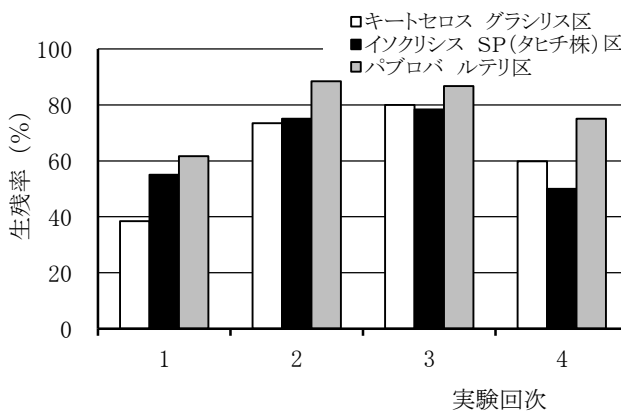


図5 ハマグリ浮遊幼生期の餌料種類別生残率

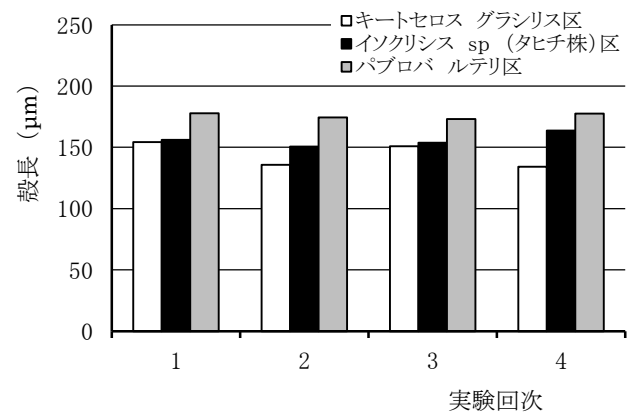


図6 ハマグリ浮遊幼生期の餌料種類別成長

[発表及び関連文献]

[その他]